

塩野義製薬株式会社御中

## 「Mother to Mother プロジェクト」第2年次 月次報告⑤

対象期間：2017年6月1日～2017年7月31日

### 1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスプロ郡 イラマタク地域開発プログラム事業地内
事業期間：	2016年10月～2017年9月（事業2年目）
対象人口：	14,612人（うち5歳未満児2,440人と出産年齢の女性3,507人を含む）
年間予算：	2,000万円
活動目的：	ナロク県オスプロ郡の保健医療施設レベルの強化、母子保健サービスの向上、及び住民への啓発と意識・行動変容を通して、対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

### 2. 進捗報告

第2年次に予定している9つの活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。

#### 活動① 診療所の建設

産科棟とスタッフ宿舎は順調に建設工事が進んでいます。台所についても建設を開始しました。毎週、現地の政府やエランガタ・エンテリット地区の村落保健委員会と共に、建設の進捗および作業の質のモニタリングを行っています。事業2年次が終了するまでに全建設作業が完了するように、作業を進めています。



産科棟の建設



スタッフ宿舎の建設

## **活動② コミュニティ・レベルでのアドボカシー活動**

エンクトト地区およびモシロ地区のアドボカシー・グループに対して、能力強化研修を実施しました。地域の保健課題や、政府が果たすべき役割や提供されるべき保健サービスについて、コミュニティに伝える啓発活動も実施しています。

## **活動③ 巡回診療**

引き続き、保健省や村落保健員（CHV : Community Health Volunteer）との連携の下、巡回診療を毎月エランガタ・エンテリット、エンクトト、モシロの3地区、各2カ所で行いました。保健サービスの提供と母子保健に関わる啓発教育、また予防接種の普及を行っています。巡回診療を継続的に行ってきたことで、多くの住民に保健サービスを受けたいという意志が芽生えてきました。5歳未満児843人（男子451人、女子392人）が予防接種を受け、そのうち104人が完遂することができました。予防接種を全て完遂せずに来院しなくなっていた子ども46人に対して、全ての予防接種を行いました。また、CHVおよびMother-to-Motherグループにより妊産婦に対して産前健診を最低4回受診することや診療所での出産の安全性について啓発教育を実施しています。この2カ月間では7人の赤ちゃんが診療所で産まれました。

対象期間中、140人の妊産婦および555人の授乳婦が診察を受け、産前健診やHIV検査、尿検査、血液検査、VDRL（梅毒）検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。81人の妊産婦がHIV検査を受け、13人が4回の産前健診を受診しました。

## **活動④ 保健サービス管理能力強化研修**

モシロ診療所の村落保健委員（Village Health Committee: VHC）15人（男性10人、女性5人）に対して、診療所の保健サービスの管理に関する研修を実施しました。既に研修を受けた村落保健委員会は、コミュニティで診療所での保健サービスを受ける重要性について啓発活動を実施したり、施設の管理を行う等の活動を実施しています。

\*本活動は3診療所の村落保健委員会で実施する予定としていましたが、2016年にエンクトト地区で建設が完了した診療所も開所したため、計4診療所の委員会に対して研修を各1回実施しました（エランガタ・エンテリット診療所、エンクトト診療所、オルトゥモソイ診療所、モシロ診療所）。

## **活動⑤ 母子保健・栄養研修**

本事業で母子保健・栄養に関するトレーナー育成研修を受けた村落保健普及員（Community Health Extension Worker: CHEW）が、モシロ地区の20人の村落保健員（CHV）（男性16人、女性4人）に対して母子の健康と栄養改善に関するトレーニングを実施しました。既にトレーニングを受けた他の地区のCHVは、2008世帯に対して母子の健康と安全、栄養の増進の啓発活動を実施してきました。また、HIVに感染している子どもをどのようにケアするのかや、緊急時に子どもの成長と発達をどのように支援していくかを保護者に伝えることも行っています。

## 活動⑥ 村落保健員の収入創出活動支援

エランガタ・エンテリット地区では、養蜂施設の建設が完了し、20箱の養蜂箱の搬入が完了しています。養蜂施設には直射日光を遮るための屋根を設置、またセキュリティの観点からフェンスで囲っています。CHVは、養蜂業者から養蜂箱の設置、高品質な蜂蜜採取のための管理、蜂蜜の採取方法等についてトレーニングを受けました。乾期が続き、まだ蜂は巣を作り始めていませんが、雨期になり蜂が周辺の地域に戻ってくると巣を作り始める予定です。



養蜂施設（外観）



養蜂施設の中に設置した養蜂箱

また、エランガタ・エンテリット地区のCHVは、CBO（Community-Based Organization：地域に根差した組織）として現地政府に登録をしました。これによりグループとして銀行口座の開設ができ、養蜂活動により得た資金を銀行口座に預金し、運用・管理することができます。また政府に認められた組織として、現地政府から活動資金の支援などを受けやすくなります。

## 活動⑦ Mother-to-Mother (M2M) グループの活動支援

モシロ地区においてMother-to-Motherグループを組織し、母子保健・栄養に関する研修を実施しました。既に組織され活動を開始しているエランガタ・エンテリット地区とエンクトト地区のM2Mグループは、CHVとも協力して、それぞれのコミュニティの妊産婦や母親に対して、診療所で提供される母子保健サービスや産前・産後健診を受ける重要性、子どもの予防接種の重要性を伝えています。

## 活動⑨ 栄養不良児支援

保健省と協働して、巡回診療や診療所で子どもの栄養状態を確認し、栄養不良児に栄養補助食の支給を継続的に行っています。対象期間には、巡回診療時に20人が発育障害、15人が消耗症、25人が低体重と診断され、保健施設で栄養補助食の支援等を受けることができました。現地政府も子どもの栄養評価や栄養状態の向上の啓発活動の支援を開始しています。しかし、事業地で長く続く厳しい干ばつの影響による食料不足は今もなお続いており、栄養不良児が増えている状況です。本事業では、巡回診療時や診療所にて栄養指導を実施すると同時に、より多くの栄養不良児に栄養補助食の支援をできるよう、CHVやM2Mグループとも協働して住民へ働きかけを強めていきます。